

森林生態環境学・地域資源保全学分野

上條隆志（生態学・教授）・津村義彦（森林遺伝学・教授）
藤岡正博（動物生態学・准教授）・清野達之（森林生態学・准教授）
門脇正史（動物生態学・助教）・川田清和（植生学・助教）

研究室の特徴

キャンパス内からアフリカまで、湖から山岳地まで、みんな野外調査（フィールドワーク）が中心です。学生が多いので、ゼミは植物組と動物組に分かれています。その他のイベントや部屋などは共通です。教員のうち2名は井川演習林またはハヶ岳演習林にいます。

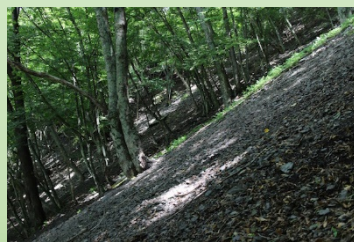
火山島の植生遷移（三宅島）



噴火後の植生遷移や植生の垂直変化を継続調査しています。外来種の導入や遺伝子汚染を最小限に抑えるため、島内の植物の種子を緑化材料としたり、近隣諸島の集団との遺伝的な違いを考慮するように研究面で支援しています。

崩壊地における森林動態の観測

南アルプスの急峻な斜面が含まれる井川演習林において斜面崩壊からの森林の発達過程を検証し、森林の更新動態のメカニズムや樹木の機能的多様性に関する研究に取り組んでいます。

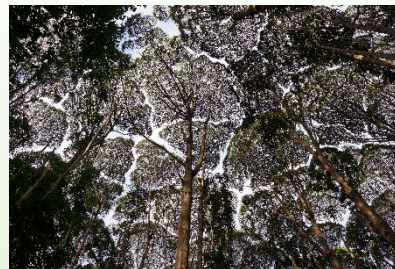


乾燥地における植物資源の持続的利用



半乾燥地では、過放牧や不適切なかんがいなどの人為的影響で沙漠化が進行しています。植生を指標にして沙漠化の程度を評価・診断する手法を開発するために、ユーラシア大陸や北アフリカで植生調査を行っています。

森林の遺伝的保全と適応的遺伝子研究



現在の森林は3度の氷期を経験し、植物は気候に応じて分布変遷を繰り返して、現在の分布域を形成しています。現在の森林がどのように形成されてきたかを遺伝的な手法で明らかにし、樹木のDNAに隠された歴史を研究します。

生物学的知見に基づく鳥獣害対策

ツキノワグマによる森林被害やワウによる漁業被害などを対象として、被害状況に応じた投資効果の高い鳥獣害対策を追求するとともに、餌の時空間的動態に対する動物の反応についての研究に取り組んでいます。



農林生態系における野生動物や生物多様性の保全



水田や里山とその変化が魚類や両生類、鳥類などの多様性や生息数に与える影響を評価したり、外来種の侵入実態を調べています。また、希少動物のコウモリ類やヤマネの生態についても研究しています。

研究室HP

<http://www.u.tsukuba.ac.jp/~kawada.kiyokazu.gu/>